

みんなの「なんなの?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)

# 信毎こども記者ニュース

こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南県町657  
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.46

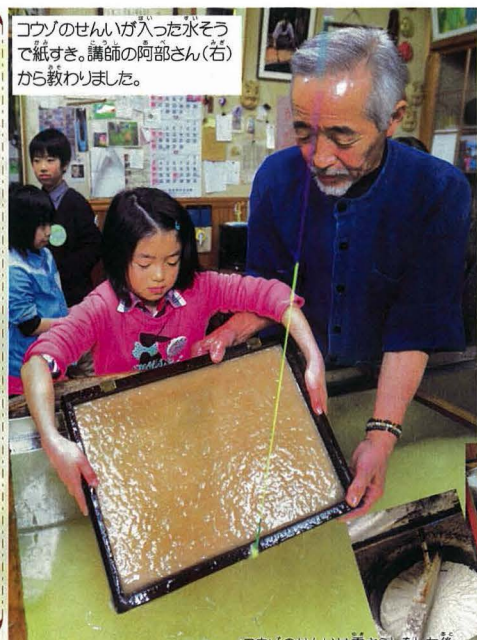


飯山地方特産の「内山紙」。この紙を通して見える光は何ともいえないやわらかさがあります。丈夫で日焼けもしにくく、障子紙として長く親しまれてきました。信毎こども記者クラブは20日、この和紙を作っている飯山市の工房を取材。内山紙協同組合理事長の阿部一義さん(64)を講師に、その歴史や作り方を教わり、紙すきもしました。参加したこども記者たちが内山紙について知ったこと、体験の様子をレポートします。

ぼくの心のアルバムに残したいのが、紙すきの体けんをしたことです。「どろろん」とした冷たい黄色の水を、糞糞といふ道具の中に入れて、持ち上げたらとても重かったです。それをジャブジャブと音をたてながら、前後左右と落とさないようにうて、水をすてることを数回くり返しました。その後、うすくできたベトベトの紙を、阿部さんがペロンとはがしてくれました。紙すきは、かんたんそうに見えただけ、むずかしかったです。出来上がった紙は、ハガキにして、いここに送りたいです。

**ジャブジャブ音をたてて**  
小田切麗磨 記者  
(長野市三年)

当日すいた紙は、阿部さんが乾燥させて完成させてくださいました。取材教室に参加してくれたこども記者たちの家に送ります。大きな紙一枚として使ってもいいけど、半分の大きさからはハガキが4枚とれます。残った半分は、細長くつらなけて、俳句を書く短冊にしてもいいね。



コワソのせんいが入った水そう  
で紙すき。講師の阿部さん(右)  
から教わりました。

## 内山紙作ったよ!

内山紙は、飯山地方に産する高級障子紙です。始まりは、二つの説があります。350年前の、江戸時代の寛文元(1661)年に、木島平村に住んでいた萩原喜右衛門さんが、美濃の国(岐阜県)で紙すきを習って帰郷したことから広まったという説と、マタギ(猟師)が紙を作った神社におさめたことから広まったという説があります。飯山地方は豪雪地帯で、農家は冬場の副業として紙を作って、越後(新潟県)でたくさん売ったそうです。そして何より、原料となるコワソの皮を白くする「雪さらし」の作業のために雪が必要だったことから、この地に広まったそうです。内山紙にはすごい歴史があります。

**350年の長い歴史**  
酒井穂杏 記者  
(長野市四年)

内山紙を作るステップの中で「雪さらし」という作業があります。雪さらしとは、原料となるコワソからとれた皮(黒皮)を雪の上におき、その上に雪を少しかけて約1週間おいておくことです。かけた雪が日光によつてとけると同時に、黒い皮が白くなるのです。自然の力はすごいな、と思いました。

**自然の力はすごい**  
大日方優喜 記者  
(長野市三年)

一人ずつ和紙を作りました。紙すきをする前に、まず、水そうの中の、白くてどろどろした水をぼうでまぜてから、先生が見本を見せてくれました。「すくところ、むずかしそう。できるかな」とドキドキしてしまいました。やってみたら、すげたの中に、おとうさんゆびが入ってしまつて「だいたいようぶかな」と思いましたが、あべさんがお話をしてくれました。うれしかったです。

できるかな? ドキドキ  
相馬萌花 記者  
(松本市二年)



6年生は内山紙の卒業証書をもらいました。

いろいろな製品も見えました。



きれいなランプにもなるよ

飯山のとくさん品である内山紙。350年前からつづいていますが、げんざい、紙をすいているのは4けん。その1けんが私の家です。とてもすくれないのでびつくりしました。私のお父さんは、伝統工芸士で内山紙の職人です。朝から、つめたい水をいじって仕事をしています。新しい品物作りにも、ちようせんしています。がんばっているお父さんは、すごいと思います。私が大人になったら、お父さんのお手伝いをして、内山紙がつづいていこうにしたいです。

**すごいね、お父さん**  
阿部希輝 記者  
(飯山市三年)

私は、和紙の里に住んでいます。この取材教室で初めて内山紙の作り方や歴史について学びました。その中で、私が楽しかったことベスト3をお話します。第3位は、内山紙でできた小物を見たことです。おさいふ、ブックカバーなど、生活の中で使うものがたくさんありました。見たたりさわたりしていると、「すごいなあ」と思つてはしくなりました。第2位は、工房の中にある機械の見学です。一番印象に残っているのは、原料となるコワソのせんいを細かくする機械です。ガタン、ガタンとすごい音がして、何だか面白くなってきました。第1位は、自分で和紙を作ったことです。自分でできるようにつたのがうれしかったです。

**「楽しかったこと」ベスト3**  
米持菜香 記者  
(飯山市五年)